

# 8月に寄せた

## 児童施設 施設長 岡野美智子

つくほうだより

暑い日が続いております。長雨が各地で多くの災害をもたらしました。

新型コロナウイルスの蔓延する中、災害に遭われた方々の大変さと思うと胸が痛みます。おかげさまで社会福祉法人筑峯学園は天災の影響もなく、新型コロナウイルスに懼る人もなく元気に過ごしております。

施設から感染者を出したくないという職員の共通の思いで、日々の予防（マスク、消毒、うがい）に併せ非常時に備えてのシミュレーション等を行っています。

今年の学校の夏休みは8月1日から23日までと短くなりました。保護者の皆様には楽しみにしておられた夏季帰省は、茨城県でもコロナ感染者が増え続けておりますため今年はやや中止いたしました。非常に残念な事と思いますが、皆様理解して協力いただきありがとうございます。

外出はできませんが8月5日、6

日と園内でキャンプを行いました。いつもと違う食事、バーベキューや涼を感じながらの流しそうめん、定番のカレーライスをし、日中はどじょうすくい、スイカ割りやグループで考え答えを出し合うレクリエーションを行い、夜は肝試し、花火を楽しむなど盛りだくさんのキャンプでした。子供たちの元気な姿を写真でご覧ください。

話は変わりますが、社会福祉法人筑峯学園の前身である筑波学園は大正12年にこの地に始まりました。第二次世界大戦の時は園生の生活を守るために大変であつたようです。東京都内の施設は疎開し、疎開先で寒さや食べるものにも事欠き多くの子供たちが犠牲になったということです。筑波学園は創始者の弟が医者であり、子供たちの医療を見ていましたが、虚弱者の数人は亡くなったというこ

とです。平沢の地を見渡すところに鎮魂碑とお墓があります。毎年、理事長と共にお盆の時期に迎えに行つて送つていきます。彼らの生活していた場所で安らかに眠っているだろうと思ひ、この施設の歴史のようなものを8月には感じております。改めて現在利用している方々の命を大事にして支援していこうと思ひます。

皆様、まだまだ暑い日が続きます。皆様方におかれましても感染症、熱中症にもお気をつけてお過ごしください。



# 辛抱の年

## 障害者支援センター未来センター長 松島寿樹

長い梅雨が明け、本格的な夏がやってきました。皆さまいかがお過ごしでしょうか？梅雨が明けたと同時に、猛暑が続き体調管理が大変な日々ですね。

ここ数年は空梅雨が多く、沢水で作るつくほう米の田んぼの水管理に四苦八苦していましたが、今年は水には困らないで済みそうです。代わりに、日照不足や低温で畑の野菜の生育や管理が十分にできずに生育不良状態が続いて頭を抱えました。毎年、極端な気候が増えている気がしますが、いろいろな環境に対応できるように工夫しながら、職員・利用者が協力して乗り越えていきたいと思えます。今年度も新たな利用者・職員を迎え、少しずつ未来の活動にも慣れ、各作業班で活動する事が出来ています。特別支援学校を卒業して新たに社会人生活をスタートする人や他の事業所から未来に通い始めた

人、それぞれ環境の変化で大変な思いもあるかもしれませんが、自然体で活動に取り組む姿も見られ頼もしくも感じます。今年はコロナ禍における社会状況の混乱や、新たな社会生活に向けての対応に苦慮した上半期でした。幸い、現在まで利用者、職員の家族等に感染者が出ることなく、営業することが出来ています。しかしながら、恒例の行事であるキャンプを中止するなど、障害者支援センター未来も大きく影響を受けています。利用者の中には行事の中止や変更等で困惑する様子が見えますが、事業所としても今後の日課や行事の在り方を考え直すいい機会、次年度に向けての「辛抱の年」ととらえ、活動内容等についても考えていきたいと思えます。

今後とも、障害者支援センター未来の活動へのご理解、ご協力よろしくお願致します。

# 「コロナ禍でもよりよい夏を」

グループホームほつとハウス 施設長 大和田 敏夫

長かつた梅雨もようやく明けて夏の晴れ間が嬉しく感じられる頃になりました。今年はコロナ禍により様々な面で自粛を強いられる状態が続いておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

ほつとハウスにおきましては、今年度早々に首都圏で生活しているご家族、県内在住であつてもご家族の中で首都圏に通勤・通学をされている方がおられるご家族の方々に面会・外泊の自粛をお願いする形となりましたが、法人として今のところ一人の罹患者も出さずに生活することが出来ていることに対し、皆様のご理解とご協力に改めてこの場をお借りしてお礼を申し上げさせていただきます。また、今回の夏休みにつきましても、冬休み後から帰省を心待ちにしていた利用者さんやご家族の皆様の立場となつて考えると大変心苦しい限りですが、7月に入り茨城県内において

も発症例が増え、事業所のあるつくば市内においても感染者が出ている状況を鑑み、都内在住もしくは県内在住であつてもご家族に首都圏に通勤・通学をされている方がおられるご家族については、事業所として感染リスクを避けるという意味で帰省を制限させて頂く形を取らせて頂くことになりました。コロナ禍がいつまで、どのように続いていくのか、誰にも予想が出来ない状態に不安は尽きませんが、利用者さんの安全と事業体制の維持を最優先にした決断となりましたので、何卒ご理解を頂けます様にお願致します。

ほつとハウスで生活している利用者さんの生活の様子をお伝えしたいと思います。利用者の皆さんは毎日元気に支援センター未来へ通所し、夕方に帰宅する際には「今日は〇〇の作業をしたんだよ！」と元気に話をしてくれています。入浴介助をする度

ばかりです。

8月13日、14日には生活担当職員が中心となり「お楽しみ会」と称して幾つかのバイキングメニューを準備し、映画やカラオケ、夜には花火を楽しむといったイベントを行いました。その他にも水遊び等のレクリエーションも企画し、利用者さんに夏を感じてもらい、楽しんでもらええるようにしたいと考えております。

最後になりますが、皆様におきましても感染症対策と暑さ対策を取りながらしっかりと休養を取って頂き、共にコロナ禍と暑い夏を乗り切り、また元気な姿でお会いできることを楽しみにしております。

に日焼けの痕が濃くなつていく様子を見ていると、皆の頑張りがよく伝わってきます。また、本格的な夏は始まったばかりですので、皆が元気に夏を乗り越えられるように職員一同協力してサポートしていきたいと思っております。行事につきましては、5月2日に毎年恒例のBBQを行いました。6月7月に予定されていた買い物外出については、通常であれば1日かけて自身の生活や作業に必要なもの、CDや本等を購入し、昼食やおやつには自分の好きなものを選択して食べるという利用者さんが最も楽しみにしている行事のひとつではありますが、今回は感染リスクを避ける意味で時間の短縮や行き先を限定した形で実施しました。そのような形でも利用者さんからの外出を心待ちにしている言葉や、笑顔で車両に乗り込んで出掛けていく姿を見ると、1日も早くこれまで通りの日常に戻ることを願う

# 夏満喫!

## 児童発達支援事業すたーと 管理責任者 引田紘介

長い梅雨が明け、うだるような暑さが続いておりますが、夏バテなどなさつてはいらつしやいませんでしょうか。

職員は酷暑に負けてしまいそうですがすたーとに通う子どもたち4名は暑さに負けず元気いっぱい過ごしております。

現在も、全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、身近な場所での感染情報等も耳にしており、まだまだ園を出ての活動は難しいかなと思っております。5月に予定していた、春の遠足も残念ながら中止の判断となりました。毎日の送迎の際につくばエクスポセンターのロケットを見た子どもが、「あーロケットだー」と目を輝かせていたので、いつもの道順ではなく、エクスポセンターの前を通って車からロケットを見る時間を作りました。少しかもしれないですが、子どもたちの気分が晴れ、楽しい気持ちになればとの思いからです。

今後感染には十分に注意を払いながら、子どもたちが楽しくすたーとに通う事が出来るよう工夫していきたいと思っております。

今年の夏は、児童施設のキャンプも新型コロナウイルスの影響で、学園内でのキャンプになりました。例年で考えますと、児童発達支援の職員もキャンプのサポートに入りますので、児童発達支援は休業となり、児童発達支援の子どもたちがキャンプに参加する事は出来ませんでした。一部ではありますが今年もキャンプに参加させてもらう事が出来ました。1日目は、どじょうすくい・スイカ割りに参加しました。どじょうを素手で捕まえた子や、おたまですくえた子もいました。スイカ割りでは、目隠しをして竹でスイカを叩きました。残念ながら、スイカは割れませんでした。が、児童施設のお兄さんたちがやっていたのを見て「やりたいー」と意欲的な

子どもたちの姿を見る事が出来ました。2日目は、流しそうめんです。児童発達支援の子どもたちは、昼食を食べてお腹いっぱい状態からの参加でしたが、流れてくるそうめんを

フォークで上手に取り、つゆに付けずにそのまま口に入れて食べている姿はとっても可愛かったです。児童施設のお兄さんのお兄さんがいる環境で、圧倒されている子もいましたが、普段関わることがない人と関わり、ご家庭でもなかなか経験する事が出来ない活動に参加する事ができ、良い機会になったと思っております。その他、児童発達支援ではプール活動も始まりました。子どもたちは、顔に水が掛かっても大丈夫なのか?泣くのではないか?等と予想していましたが、予想は外れて全員が大はしゃぎでした。8月いっぱい熱中症に気を付けながら、プール活動を行なっていきたいと思っております。今年の夏は、新型コロナ

ウイルスの影響から、夏らしい事もあまり出来ないのではないかと心配していましたが、結果的に夏を満喫する事が出来たかなと思っております。

来年の夏は、子どもたちがもっと楽しい思い出を作れるよう、今から少しずつ考えていきたいと思っております。

残暑も厳しい暑さが予想されます。熱中症・感染症には十分に気を付けて、楽しい夏をお過ごし下さい。

# 感染症対策、熱中症対策の中、相談支援として考えよう

相談支援事業所筑峯学園 所長 武田真浩

つくほうだより

今年は何年以上に長く感じられた（実際にも長かった）梅雨がようやく明け、急激に暑くなり、夏本番といった日々が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？熱中症対策に加え、新型コロナウイルス感染症に対する注意も引き続き必要な状況であり、気苦労の絶えない日々をお過ごしの方も多いかと思われ、大変な状況が続いておりますが、毎日健康に過ごすことの大切さやありがたさを再認識する機会ともなっております。

策定、シミュレーション（職員トレーニング研修）の実施、持ち込まない対策の徹底等の重要性を学び、今後の対応に活かしていかなければならないと強く思い改めました。研修の中ではメンタルヘルスの話もあり、こころの中を整理すること、考え方を工夫してみる、こと、人と話をする、こと、日常生活のリズムを崩さないようにすること、対処方法を探してみる、こと、心をリラックスさせる方法を身につけること、テレビやインターネット等の情報を見過ぎずに、情報源が確かな情報のみ得るようにすること等、こころのケアに関する情報もいただくことができ、ました。ついつい対処や対応に追われてしまいがちですが、日々生活していく中でのメンタルヘルスも大切になってきます。不安、緊張、何とも言えないモヤモヤとした感じ、見通しがもてない状況…等、なかなか気持ち元氣になれない状況が多くなっていること

と思われるが、だからこそ発散したりリフレッシュできる方法を1つでも2つでも身につけておくことが必要かと思われ。ちなみに私のリフレッシュ方法は、睡眠とジャイアンツ愛です。ジャイアンツが勝ち、よく寝れば大抵のストレスは吹っ飛びます。皆様のリフレッシュ方法は何でしょうか？利用者さんへの支援においてもその方の発散やリフレッシュする方法を身につけられるように関わっていくことも大切なことの1つかと思えます。新型コロナウイルス感染症への注意が必要な状況の中で、相談支援としても状況に応じて臨機応変に対応することが求められています。基本は、自身の健康管理。毎日朝と夜の検温、手洗い、消毒、うがい等をこまめに行なうようにしています。電話、メール、書面でのやりとり等、接触しない形での対応を優先的に行なうようにして、訪問や外出はできるだけ控える

ようにもしています。しかし、相談支援という業務の内容上、どうしても合わないところから、確認できないこと等もあり、必要最低限になるように注意しながら、感染リスクや必要度をその都度検討して、慎重に判断しながら対応するようにしています。通常の相談対応ができない状況が増えている、対応が不十分であったり、至らないことも多くなっているかと思われ、皆さん理解して協力して下さっており、大変ありがたく思っております。今後もしばらくの間は、ご本人やご家族の方と相談しながら対応方法をその都度考えて決めさせていただきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

直接お会いできない形での対応が多くなっている中で、言葉や文字以外のコミュニケーションの大切さを改めて感じております。直接お会いして、相談



つくほうだより

して下さる方の生活を一緒に考える  
ことが出来る日常が出来るだけ早く  
戻ることを願っています。引き続き皆様に  
おかれましては、自愛のほど心より  
お祈りいたしております。